

## ブラゼルトン新生児行動評価 (Neonatal Behavioral Assessment Scale; NBAS)

NBAS は、1973 年に T Berry Brazelton 博士 (現ハーバード大学名誉教授) によって開発された新生児の神経行動発達の評価方法です。本法は、新生児小児科分野および発達心理学分野の臨床・研究に世界的に広く利用されています。

Brazelton は、新生児を外界との相互作用によって諸機能を獲得する主体として捉え、新生児の発達は自律神経系、運動系、状態系 (state)、注意/相互作用系の 4 つの行動系の組織化と中枢神経系の発達、外環境との相互作用によって獲得されるとしています。自律神経系は呼吸・循環器系、内臓器系など生理機能の恒常性、運動系は姿勢や自発運動、原始反射の活動性などの運動調整能力、状態系は睡眠 - 覚醒リズムや意識状態 (state) の調整能力、注意/相互作用系は視聴覚刺激に対する反応や覚醒状態を調整して外界と関わる能力を示します。このような新生児行動の発達概念は、発達心理学や新生児医学、看護学の分野で広く受け入れられています。

NBAS は診断ツールではありません。新生児の発達やご両親の関係性を育むための介入ツールです。評価では、検査者との相互作用を通して、1) 新生児の各行動系の安定と全体の組織化、2) 新生児が外界から受ける影響 (ストレス)、3) 新生児の能動的な外界への行動 (相互作用の能力) を評価するように意図されています。評価項目は、35 項目の行動評価 (うち 7 項目は補足項目) と 18 項目の神経学的評価 (Prechtle & Beintema に基づいている) から構成され、行動評価項目は 9 段階 (それぞれの項目ごとに定義づけされている)、神経学的評価項目は正常反応、低反応、過剰反応、非対称性の 4 段階の尺度で評価します。これらの項目は 1) 慣れ反応 (睡眠状態の安定性)、2) 相互作用 (敏活性、視聴覚刺激に対する注意と反応性)、3) 運動 (運動の成熟性)、4) 状態の組織化 (State の安定性)、5) 状態調整 (State の調整能力)、6) 自律神経系の安定 (自律神経系のストレス徴候の現われやすさ)、7) 誘発反応 (筋緊張・原始反射) の 7 つの枠組み (項目群: クラスタ) で、新生児行動が示されます。図には、新生児の神経行動発達のモデルと、NBAS の評価構成との関係を示しました。

NBAS は、広く臨床と研究に活用されています。臨床活用では、新生児の発達評価を通して、ケアの方法を検討・計画することができます。また、NBAS を両親と一緒に実施しながら、両親に児の行動についての理解を促し、育児支援をおこなう介入ツール (NBAS-based intervention) としても活用されます。研究活用では、周産期リスク因子や母体の薬物使用、環境汚染の新生児行動に対する影響や、新生児行動の文化圏差、新生児行動と乳児期の気質や母子相互作用の関連、新生児行動と乳児期の精神・運動発達や発達予後との関連などの観察研究、また介入研究の帰結評価尺度としての利用など、多くの報告があります。

NBAS を臨床や研究で用いるためには、評価の初期コース (introduction course) と認定コース (certification course) を受講することをお勧めします。お問い合わせは、大城昌平のメール

アドレス (shohei-o@seirei.ac.jp) まで、お知らせください。

